

2010/11/8

第15回「IR優良企業賞」発表 投資家の関心に応えた活動に評価

日本IR協議会（会長・澤部肇TDK会長）は、このほど2010年度IR優良企業賞受賞企業を決定いたしました。「IR優良企業賞」（審査委員長・野村證券金融経済研究所 海津政信チーフリサーチオフィサー）は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で15回目を迎えます。

今年の実賞企業には、以下のような特徴があります。

- 環境が変化しても経営トップがIRを重視し、継続している
- 投資家の関心に応じた説明会や、使いやすく整理された情報開示を実施している
- 株主・投資家の意見を経営層にフィードバックし、関連部門もIRに協力している。

海津審査委員長は、「海外の拠点視察や事業説明会など、投資家の関心をとらえたIR活動が評価された。所属業界の先駆者としてIRを実施した企業や、厳しい事業環境にも関わらず活動を維持・向上した企業にも評価が集まった。また、受賞企業の業種・企業が多様化し、日本のIR活動の裾野が広がっていることを確認できた」と語っています。

審査対象は、日本IR協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2010年の応募企業は322社となりました。受賞企業は下記の通りです。IR優良企業大賞1社、IR優良企業賞6社、IR優良企業特別賞5社、IR優良企業奨励賞1社の合計13社でした。受賞企業の実選理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

IR優良企業大賞 受賞企業

株式会社 小松製作所（コマツ）

IR優良企業賞 受賞企業（社名50音順）

アサヒビール 株式会社
株式会社 オリエンタルランド
コニカミノルタホールディングス 株式会社
東京海上ホールディングス 株式会社
日産自動車 株式会社
株式会社 ファミリーマート

IR優良企業特別賞 受賞企業（社名 50 音順）

住友信託銀行 株式会社
パーク 24 株式会社
株式会社 パルコ
株式会社 プロトコーポレーション
丸紅 株式会社

IR優良企業奨励賞 受賞企業

株式会社 サイバーエージェント

各賞の概要は下記の通りです

IR優良企業賞

日本 IR 協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定しています。

IR優良企業大賞

過去 2 回 IR 優良企業賞を受賞し、3 回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から 2 年間は「IR 優良企業賞」の対象から除外されます。

IR優良企業特別賞

IR 優良企業賞に応募した企業のうち、継続的に IR のレベルを高めている、業界のリーダーとして IR に積極的である、個人投資家向け IR の評価が高い——企業など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

IR優良企業奨励賞

IR 優良企業賞に応募した企業のうち、新興市場・東証二部の上場企業、および東証一部上場企業であって新規に株式を公開後 10 年目以内の中小型株会社の中から表彰しています。2002 年より表彰をスタートさせました。

審査方法は 3 段階で、下記のとおりです

- ① 応募企業が提出した「調査票」の結果を基にした第一次審査（197 社が二次へ進出）
- ② 審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員 13 名が IR 優良企業対象企業 155 社、奨励賞対象企業 42 社を評価する第二次審査
- ③ 審査委員全員による第三次審査

表彰式は「IRカンファレンス 2010」（12 月 21 日（火）開催、於：六本木アカデミーヒルズ）で午前 11 時 40 分から開催する予定です。

問い合わせ先： 一般社団法人 日本 IR 協議会 事務局

TEL：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

担当： 事務局長・首席研究員・佐藤、首席研究員・三宅、首席研究員・篠原、研究員・葛窪

日本IR協議会とは：1993年設立のIR普及を目的とする非営利団体。会員数は（平成22年10月末時点）で658、主な活動はIRの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。
<https://www.jira.or.jp>

本ニュースリリースおよび審査委員や審査方法などの詳細は、
11月8日（月）15：00以降に、
日本IR協議会ウェブサイト <https://www.jira.or.jp> に掲載されます。

【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴

I R優良企業大賞 受賞企業

コマツ (07年、08年 I R優良企業賞、大賞は初)

経営トップのI R活動への姿勢が一貫しており、I R活動が明確な方針のもとで実行されている。トップはアナリスト・投資家の関心事項を理解し、説明会の質疑応答などでも密度の濃い議論が行われている。I R部門は定量・定性の両面での説明に加え、事業説明会や工場見学会など投資家の理解を深める活動にも定期的に取り組んでいる。フェアディスクロージャーも徹底している。

I R優良企業賞 受賞企業（社名50音順）

アサヒビール (04年 I R優良企業賞、2回目)

ハイレベルできめ細かいI R活動を一貫して続けている。経営トップとI R部門が近く、I R部門に情報が正確・迅速に伝えられ、投資家との議論に活用されている。I R部門は経営陣と連携しながら、タイムリーで投資家ニーズに基づいた情報発信に努めている。月次販売データの開示や決算説明会で継続的に配布するファクトブックなどI Rツールへの評価も高い。

オリエンタルランド (01年 I R優良企業賞、2回目)

経営トップを含めた経営陣の積極的なI R活動への姿勢が高い評価を得ている。I R部門は経営陣へのフィードバックに加え、部門単位での社内説明会を開催するなど社内にも株主・投資家の声を丁寧に伝えている。投資家が事業を理解するためのミーティングやイベントも積極的に開催している。アニュアルレポートなどI Rツールへの評価も一段と高まった。

東京海上ホールディングス (08年 特別賞)

経営トップがI Rに取り組む姿勢の評価が高い。説明会も充実しており、年2回の決算説明会と第1、第3四半期の電話会議資料はデータと文章で構成されていてわかりやすい。I R部門は社内外のフィードバックに努め、経営層や幹部がI Rを理解するための工夫をしている。I RサイトはI Tの特性を活かし、個人投資家向け説明会も定期開催している。

ファミリーマート (06年 I R優良企業賞、2回目)

情報開示の姿勢がぶれず、年々向上している。経営トップはM&Aなど重要な意思決定や業績の変化があっても適切に説明し、I R部門との距離も近い。I R部門は市場との対話を重視し、関連部門と連絡を取って関心に応えている。海外事業の責任者が登場する説明会や加盟店向けイベント公開などは、投資家が事業を多面的に理解することを助けている。

コニカミノルタホールディングス（初受賞）

経営トップが投資家と対話する機会が多く、IR担当役員の説明能力も高い。経営統合時からIRの姿勢が変わらず、事業環境が厳しくてもタイムリーに開示する姿勢に評価が集まる。IR部門は投資家の要望に誠実に対応し、技術説明会などの機会を設けている。決算説明会の資料はバランスよく作成され、IRサイトの情報も整理されていて使いやすい。

日産自動車（初受賞）

近年、IR活動の内容を向上し評価を高めている。IR部門が投資家と経営層とのコミュニケーションする機会を設定し、経営トップの説明も明解である。個人投資家の評価も高く、IRサイトでは社外から見えにくい部分を伝える企画に取り組んでいる。株主総会でもIRを意識し、開催前に株主の意見を聞く機会や電気自動車試乗会などを設けている。

IR優良企業特別賞 受賞企業

住友信託銀行（初受賞）

銀行セクターの中で率先してIR活動を始め、高いレベルを維持している。IR部門は積極的に投資家と対話する機会を設け、関心事項や要望に応えている。2010年は経営統合前の時期であったがIR部門は適切に対応している。アニュアルレポートやIRサイトの内容は豊富で、コーポレートガバナンス情報も使用頻度が高い資料に掲載されている。

パーク24（04年奨励賞）

情報開示の継続性に優れ、IR活動に安定感がある。月次情報やセグメント情報など数値情報が詳細で、業績予想や企業価値分析に役立つ。近年、カーシェアリングやレンタカーなど新事業に挑戦しているが、IRでもわかりやすい説明に取り組んでいる。個人投資家向けIRにも積極的で、説明会やインターネットを通じた情報配信を活発化させている。

パルコ（初受賞）

IR部門は投資家訪問など主体的なアプローチを積極的に実施するとともに、自発的、積極的に投資家への情報提供を行っている。新規店舗開店の際の説明会や会社に重要な変化が起こった際の緊急説明会などイベントへの評価も高い。アニュアルレポートや説明会資料などIRツールが高い評価を得ており、IRサイトの利便性向上にも継続的に取り組んでいる。

プロトコーポレーション（08年 奨励賞、特別賞は初）

経営トップとIRの責任者とのつながりが強く、IR部門に情報が集まっている。本社が名古屋にある点を考慮し、定期的に東京の投資家を訪問し、事業内容や会社方針の説明に努めている。個人投資家向け説明会の開催回数を増やし個人投資家向けの活動を強化するなど、この1年でIR活動の内容を向上させたという評価も高い。

丸紅（初受賞）

経営トップがIRを重視しており、投資家からの評価も高い。IR活動は近年レベルが向上し、投資家の立場を理解した対応が進んでいる。海外拠点の視察や説明会はタイムリーに関心をとらえており、アニュアルレポートのトップメッセージや経営方針もわかりやすい。CSRを意識したIRサイトや個人株主向け資料にも工夫が見られる。

IR優良企業奨励賞 受賞企業

サイバーエージェント（初受賞）

ネット広告代理事業やブログ関連事業などを展開。経営トップがIR活動へ深く関与し、投資家やアナリストとの議論を経営にフィードバックする姿勢も強い。IR部門はブログやツイッターなどのメディアを活用した情報発信にも取り組んでいる。経営陣のIR活動に対する姿勢も大きく向上した。00年東証マザーズ上場。

以上